

平成26年度 八尾市地域自立支援協議会 支援部会 活動内容

(1) 就労・日中活動支援部会

★構成員：生活介護事業所・訓練等給付事業所・地域活動支援センター

第1回 平成26年7月28日（参加者16名）

- 八尾市障がい福祉計画に向けて課題等の意見交換
- 地域で必要なサービスや制度について意見交換

<議論内容・課題等>

- ・ 優先調達法による官公需の発注促進、利用者の加齢化・重度化への支援、通所のガイドヘルプ利用、その他と地域支援ネットワークや人材確保の課題について意見交換を行う。

第2回 平成26年10月27日（参加者11名）

- サービス等利用計画から個別支援計画の流れについての説明
- 各事業所の個別支援計画の課題について意見交換

<議論内容・課題等>

- ・ 個別支援計画の目標を立てても日常の支援に活かしきれていない、利用者数が多く、計画を立てることに追われる、支援者が計画を共有できていない、希望と支援課題が一致しないこともあるなど各事業所の具体的な課題について意見交換を行う。

第3回 平成27年1月19日（参加者15名）

- 各事業所からの課題をもとに個別支援計画書の2つの事例の報告

<議論内容・課題等>

- ・ 各事業所の計画の作成の流れや目標の共有方法など意見交換をして、支援者間の共有のための会議や記録のあり方などの重要さの振り返りを行う。

第4回 平成27年3月16日（参加者15名）

- 今年度の部会の振り返り

<議論内容・課題等>

- ・ これまでの議論から個別支援計画づくりの考え方や視点を整理し、今後の作成につなげる。
- ・ 今年度の部会参加の感想等を通じて、事業所を超えた気づき・交流の場の重要性、部会のあり方等について議論。

(2) 地域生活支援部会

★構成員：居宅介護事業所

第1回 平成26年8月7日（参加者：12名）

- 利用者に参加して頂き、介護の現場での不満や不安、希望等の声を聞かせて頂く。
- 障がい福祉計画に向けての意見

<検討内容・課題等>

利用者の声

- ・ もっとヘルパーとのコミュニケーションをとりたい。
- ・ ヘルパーにも障がい福祉の事をもっと知ってほしい。
- ・ 地域の全ての事業所に 障がい者への支援をして欲しい。

障がい福祉計画についての意見

移動支援での問題点

- ・ グループホーム利用者の移動支援について柔軟な運用
- ・ 高校・大学における介護の確保
- ・ 人員不足

課題

- ・ 65歳以降自立支援から介護保険になり、今までのサービスが受けられず不満

第2回 平成26年12月9日（参加者：14名）

- 介護の現場に携わる職員、ヘルパー、利用者の家族から耳にする意見等を聞かせていただく。

<議論内容・課題等>

家族から

- ・ 家族の高齢化でこの先が不安
- ・ いつでも相談できる窓口がほしい。（遠方の相談員を利用している。）
- ・ ヘルパーにやってもらい、本人の自立につながるのか不安

居宅介護

- ・ 精神障がいの利用者が増え、接し方が分からない。難しい。
- ・ 聴覚障がい→ 筆談では、細かい部分や気持ちが伝わりにくいが、手話ができるヘルパーが少ない。
- ・ 人員不足→ 募集をしても訪問は嫌がれる。

同行援護

- ・ 視覚障がい利用者が昨年より増加
- ・ 自費にならないように利用時間を気にしながら行きたい所も我慢している状態で、もっと利用時間を増やしてほしい

移動支援

- ・ 作業所への送迎がほしいが使えなく、結局家に閉じこもっている
- ・ 旅行のガイドでは、重度・同行援護等で 利用できるサービスの違いがあり社

会参加しにくい。

- ・ ガイド希望者は多いが人員不足で対応できない。ヘルパーも高齢化でしんどい。

第3回 平成27年2月5日（参加者：18名）

- 講義 「精神障がい者の利用者の接し方。利用者に関わるヘルパーのメンタルケア」
講師：医師
- 障がい福祉サービス事業所一覧マップの完成報告

(3) 入所・グループホーム支援部会

★構成員：施設入所支援事業所・共同生活援助（GH）事業所

第1回 平成26年7月23日（参加者：7名）

- 八尾市障がい福祉計画に向けての意見集約
- 各事業所の現状報告

<議論内容・課題等>

- ・ 平日日中の支援、休日日中の人員確保について、補助加算が必要)
- ・ 医療的な対応の問題（通院時の支援、入院時の支援）
- ・ 地域移行というかけ声があるが、運営基準に関する安全性確保の改善のため、グループホームの新規設置が促進できない。
（「第4期八尾市障がい福祉計画の見直しに向けた意見に関して」においても記載）
- ・ 利用者の精神的な不安定、ホーム内の人間関係への対応。

第2回 平成26年10月21日（参加者：10名）

- 研修として講演と座談会 講師：大学教授
「暮らしの場におけるリーダーの役割」

<議論内容・課題等>

- ・ グループホームで生活するとはどういうことか？
- ・ 生活の質の確保とは⇒利用者主体の支援とは？
- ・ 自立生活支援＝（利用者の）「自分らしさ」の追及。
→周囲の環境や支援者のアプローチで利用者が変わる。リーダーは一方的な指示ではなく、世話人の置かれている状況を理解、共感し評価するかかわりが必要。

第3回 平成27年1月28日（参加者：6名）

- 研修、および地域課題についての振り返り
- 各事業所の現状報告
- 世話人交流会 企画の最終確認

<議論内容・課題等>

- ・ 加齢に伴う体調不良への対応、医療との連携。（ターミナルケアの検討も必要に・・・）
- ・ 利用者が自分の要求を出せるホームになっているか？ルールへの押し付けになっていないか（健康や安全への配慮⇔管理・制限との兼ね合い）
→ 私はこのホームで暮らしたいと思うか？という自分への問いかけ

平成27年2月19日 同支援部会企画 世話人交流会

昨年と同様グループホーム世話人が交流を通じて学習や意識向上につなげることを目標とし企画。6法人より、世話人19名が参加し、協議会メンバーと共に「理想のホームをつくろう！」というテーマにより懇話

第4回 平成27年3月19日予定（年間のまとめと次年度活動予定）

(4) 障がい児支援部会報告

★構成員：保健所・支援学校（府立・市立）・児童発達支援センター・児童発達支援&放課後等デイサービス事業所・居宅介護事業所・日中一時支援事業所・短期入所事業所

第1回 平成26年7月9日（参加者：16名）

- 第4期障がい福祉計画の策定に向けた意見の検討
- 現状報告・情報共有
 - ・放課後等デイサービスの事業所が急増したが、利用ニーズには応えきれていない
 - ・複数の事業所を利用することで、支援課題、支援方法の共有化が求められる
 - ・学校卒業後の進路先（日中活動事業所）が足りていない
 - ・短期入所が不足している。緊急時にも他市の事業所を頼らざるを得ない状況

第2回 平成26年9月19日（参加者：16名）

- やおっこファイルの活用に向けたグループワーク
- 部会内研修の内容の検討
- 現状報告・情報共有
 - ・記入する事に対する精神的な負担が大きい。項目・欄がたくさんあり、記入に迷う。支援者と一緒に記入できる事が望ましい。
 - ・障害特性・疾病などに関する事、虐待ケースのその後のフォローアップ、家族支援のあり方について

第3回 平成27年3月2日（参加者：14名）

- サブ協議会の報告（他の支援部会の実施状況を共有）
- 現状報告・情報共有
 - ・新規契約・利用希望があるが、既利用児の利用回数を減らさざるを得ない
 - ・府立支援学校の開校により校区改編され、デイサービスの実施状況の変更を検討している事業所がある

(5) 精神保健支援部会

★構成員：精神科病院、精神科クリニック、就労継続支援B型事業所、府こころの健康センター、八尾保健所、八尾市障がい福祉課、八尾市社会福祉協議会、相談支援事業所

第1回 平成26年8月6日（参加者16名）

- 病床転換型居住施設を特集したVTRを鑑賞。その後、病床転換型居住施設についての意見交換
- 「気になるトピックについて話し合おう」というテーマでの意見交換
〈議論内容・課題等〉

病床転換型居住施設について

- ・地域移行と逆行した施策
- ・病院側としては経営の問題もあり、経営のことを考えるとバランスが難しい
- ・地域医療に対してのお金をかけていない行政の責任も。諸外国とは正反対。
- ・転換型施設は最低限、個室が必要。安全でないことも含めた自由がある。

トピックについて

- ・精神科クリニック、保健所では発達障がいの受診、相談が増加している。
- ・支援センターでは障害の多様化、発達障がいの方が増加。それに伴い、メンバーのニーズも変化。
- ・昔から就労B型通所されているかたが、高齢になり通所が難しくなる方も出てきている。先のことも考えた支援が必要
- ・府こころの健康総合センターでは脱法ハーブの相談多い。

第2回 平成27年1月14日（参加者10名）

- 事業所の現状と今後の展望についての話題提供
〈議題内容・課題等〉

- ・平成27年度、就労継続支援B型と相談支援事業所を併設予定
- ・相談支援事業を併設することで、更なる地域とのつながりの拡大を期待
- ・就労継続支援A型事業所の増加。事業所間でのネットワークの構築が課題
- ・計画相談支援、必要な数値の3割程度の達成率しかない。今後はセルフプランを導入した計画策定